

## 2021年1月24日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

### <学科試験>

#### ■出題傾向

全般的に過去の類似問題を中心とした基本的な問題が多く、従来と比べて大きな変化はない。

#### ■問題のレベル

『リスク管理』が従来と比較して難しくなっている。ただし、他の科目については、基礎知識を問うような問題が多く、総じていえば従来と同レベルといえる。

#### ■特記事項

『リスク管理』において、税金・税務に関する問題が10問中5問と多かった。わが国の過去3年間の輸出相手国および輸入相手国の上位5ヵ国に関する問題（問題30）は、通常テキストで学習する範囲ではなく、やや難しかったと思われる。また、配偶者居住権や相続人以外の親族による特別の寄与など（問題60）、民法改正の内容が出題された。

### <実技試験>

#### ■出題傾向

全般的に過去の類似問題を中心とした基本的な問題が多く、従来と比べて大きな変化はない。

#### ■問題のレベル

『ライフプランニングと資金計画』および『金融資産運用』の一部でやや難解な問題が出題されたが、全体としては基礎知識を問うような問題が多く、従来と同レベルといえる。

#### ■特記事項

顧客本位の業務運営に関する原則（問2）や教育費負担の実態調査結果（問30）などは、公表された内容を知らなければ解けない問題といえる。PERおよび配当性向に関する問題（問4）について、計算自体は平易なものだが、決算短信の読み取りがやや難しかったと思われる。

<総括>

学科試験は、基本的にどの科目も従来から問われていることが多く出題されているので、過去問題で傾向を把握し、基礎知識をしっかり習得した受検生にとっては取り組みやすかったと思われる。

実技試験は、目新しい問題はあるものの、過去問題を中心にしっかり対策をとっていれば、合格点に到達できる内容であった。

本試験では時間配分も合格する上で重要なポイントとなる。得意科目や慣れている形式の問題から優先的に解答していくことも必要である。

※このシートは、2021年1月24日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。